後藤工業株式会社

手作業中心の現在の業務の進め方に課題を感じている
デジタル化による業務効率化により、品質向上及びリードタイムの短縮を図る

後藤工業株式会社 実証結果【1/4】

企業概要

- 企業名
  後藤工業株式会社（愛知県名古屋市）
- 社長
  後藤 真人
- 概要
  - 1948年設立
  - 各種スプリング（ばね全般）を製造販売している
  - 少量・多品種・短納期対応がモットー
  - 従業員数75名

デジタル化推進の背景

- 人による手作業が入力ミスや無駄な作業時間につながっている
- 間接（営業）部門における人の意志を介さない機械的な作業は自動化し、効率化を図りたい
- 人材不足を補う為にもデジタル化を進めていきたい（将来的にも人件費削減につながる）

導入ツール

UiPath™

- PC等のシステム環境において、人の行動を真似て各種アプリケーションを操作するソフトウェア（ロボット）
- 繰り返しの定型業務や大量のデータ処理を自動化することができる

※「UiPath」はUiPath株式会社の登録商標です

目視で基幹システムに入力していた作業を自動化し、入力ミスの撲滅及び受注処理の作業時間短縮を目指した

後藤工業株式会社 実証結果【2/4】

モデル実証を通じて解決を目指した課題

受注処理の自動化

- 現状、様々な形式(PDF、csv、fax等)で届いている受注情報の処理について、できる限り自動化して業務を効率化したい

課題解決に向けた取組内容

対象範囲の洗い出しおよび自動化のチャレンジ

- 様々な形式の受注情報のうち、どの形式のものであれば自動化の対象になりうるのか、また自動化した場合の効果が大きいのか、調査し議論を進めた
- 対象となる受注処理に対して、RPAに適したデータに加工するためのチャレンジを実施するとともに、適切な形式に加工できれば入力が自動化できるかを検証した

UiPathによる自動化を社内で議論していくなかで、デジタル化についての社内理解が進んだ

後藤工業株式会社 実証結果【3/4】

実証時に感じた壁および克服のためのアクション

UiPath導入の壁

- UiPathを導入すると1～10まで自動化してくれると思っていたが、実際には自動化するための前段階の作業（PDFからExcelへのテキストコピーおよびExcelマクロ処理）が必要であった
  ⇒この前段階が難しく、その工数を確保するのが難しかったが、対象を絞り込み（必要な形式への変換は難しかったが）マクロを試作した

自動化に業務を適合させる難しさ

- 例えばcsvをメールで受信したり、EDIで処理できれば自動化も進めやすいが、相手のあることであり、なかなか自動化できるような形式でかつ効果が出せる顧客が抽出できなかった
  ⇒社内でも十分に議論し、実現可能性を検証することに今回の目的を置き、試行対象顧客を1社に絞り込むことにした
- そのままUiPathで実証できる形式もあるが受注件数が少なくメリットを生み出すことが難しいこともあった
- 実際には備考などを入力しなければならない場合も多く、自動化しきれないものが多いこともわかった

実証体制

全体統括

技術部課長

実証担当

営業部 3名

システム担当 1名（UiPath担当）

- 社長 後藤氏のバックアップの下、全体統括を技術部品質保証室課長 と営業部3名とシステム面の担当者1名の合計5名を実証の体制とした

取組の成果

- 自社開発の生産管理システムにおける受注処理はRPAによる自動化には適さないことがわかった
- 今回の取り組みを通じて、どのようなものがRPAによる自動化に適しているか、またRPAシナリオはどのように作成するかが理解できた
- また、今回色々なメンバーと自動化の可能性のある業務やRPAについて議論することにより、RPAというものの理解を社内に広げることができた

今回の取り組みを一つのきっかけにしてデジタル化・RPAによる自動化を社内で自律的に進め、デジタル化を促進したい

後藤工業株式会社 実証結果【4/4】

今後の課題・目標

UiPathの導入

- 今回の実証では対象業務がRPAにあまり適さない業務だったが、RPAというものがどのようなものか、できることとできないことがよく理解できた。
  社長の承認も得られたため、今後は他の業務においてUiPathを社内数名で試用し知見を深め一層業務のデジタル化を進めたいと考えている
  （UiPath以外のRPAでも使い勝手を検証するようにする）

ペーパーレス化の推進

- DXはなかなかハードルが高いが、まずはペーパーレス化をしっかり進めていきたい。その上でデータ化された情報を共有していく流れを作っていきたい

情報の一元化

- データベースの一元化をしていれば、探す作業が短縮されるのでデータ管理Webシステムの構築を行い業務のサポートを行っていきたい

（デジタル化を推進する他企業への）メッセージ

- スタートは早ければ早いほどいい。早くから動ければ、その分色々な部署・人を巻き込め、新しい取り組みに対する味方を増やせる

- 今回のモデル実証事業がある事を知っている会社は、多方面にアンテナを出して情報を収集していると思います。これからの時代はIT（デジタル化）は必須ではなく当たり前の時代になるので歩みを止めずに先に進んで欲しい